

**平成 30 年度**

**自治医科大学看護師特定行為研修**

**研修生募集要項**

**(10 月期生募集用)**



**Brush up Program  
for professional**

**自治医科大学看護師特定行為研修センター**

## 1. 自治医科大学の理念

自治医科大学は、医療に恵まれない地域社会の医療の確保と向上および地域の住民福祉の増進を図るために、医の倫理に徹し、高度な医療能力を有する医師を育成することを目的とし、併せて医学および看護学の進歩と福祉の向上に資することを使命としています。

## 2. 沿革

わが国では、団塊の世代が75歳以上となる平成37（2025）年には、1人の高齢者を1.8人で支える社会構造になると予測されています。このような状況に対応していくことができるよう、手順書により一定の診療の補助を行うといった高度かつ専門的な知識と技術をもち、チーム医療のキーパーソンとして役割を発揮していくことができる看護師を養成することを目的に、国は特定行為に係る看護師の研修制度を創設しました。（保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令 平成27年10月1日施行）

本学では、大学の理念を踏まえ、看護師特定行為研修センターを設置し、看護師特定行為研修に取り組むことになりました。平成27年8月5日付で自治医科大学は、厚生労働省が指定する研修機関に指定されました。

## 3. 特定行為研修の目的・目標

本研修の目的は、地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、高度な臨床実践能力を発揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成します。

### 研修目標

1. 地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、当該特定行為を行う上での知識、技術及び態度の基礎的能力を養う。
2. 地域医療及び高度医療の現場において、患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実行できる基礎的能力を養う。
3. 地域医療及び高度医療の現場において、問題解決にむけて、多職種と効果的に協働できる能力を養う。
4. 自らの看護実績を見直しつつ、標準化する能力を養う。

## 4. 修了要件

本研修を修了するためには、次の条件を満たす必要があります。

- 1) 共通科目を全て履修し、筆記試験もしくは観察評価に合格すること
- 2) 1) 修了後、選択した区分別科目を履修し、筆記試験及び観察評価、一部の科目では実技試験に合格すること。

\*なお、特定行為研修修了後は、修了した特定区分ごとの修了証を交付し、研修修了者の名簿を厚生労働省に提出します。

## 5. 履修内容の読み替え

指定研修機関で既に履修した授業科目や時間数の取り扱い並びに履修の認定については、関連する科目の受講に当たり考慮します。

## 6. 定員

定員 30 名 \*各特定行為区分の受け入れ数 おおむね 5 名程度

## 7. 在籍期間

在籍期間 2 年

\*但し、2年以内に区分別科目を修了した者は、継続して受講することができます。

## 8. 募集時期

年 2 回 (4 月期と 10 月期)

## 9. 研修内容と時間数

研修は、共通して学ぶ「共通科目」と特定行為区分ごとに学ぶ「区分別科目」に分かれており、研修は、講義、演習または実習によって行われます。共通科目を履修後に区分別科目（選択制）を受講開始します。

- 1) 共通科目（必修科目）：特定行為区分に共通して必要とされる能力を身につけるための科目（研修期間の目安：6 か月）

共通科目名	時間数
臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ	34時間
臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ	26時間
病態生理/疾病論Ⅰ	42時間
病態生理/疾病論Ⅱ	54時間
臨床薬理学	42時間
医療安全学	24時間
特定行為と手順書	30時間
特定行為基礎実習Ⅰ	38時間
特定行為基礎実習Ⅱ	25時間
合計時間数	315時間

\*「特定行為基礎実習Ⅰ」「特定行為基礎実習Ⅱ」以外の共通科目は e-learning を中心とした講義を受け、筆記試験を合格後、「特定行為基礎実習Ⅰ」、「特定行為基礎実習Ⅱ」へ進みます。

\*\*「特定行為基礎実習Ⅰ」、「特定行為基礎実習Ⅱ」は、約 1 週間ずつ、自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センターにて実習を受けていただきます。

2) 区分別科目(選択科目)：各特定行為に必要とされる能力を身につけるための科目

\*複数選択可能、受講開始後の追加申請も可能

(研修期間の目安：各区分 5 週から 13 週まで)

コース No	区分別科目名：特定行為	時間数
①	<b>呼吸器（気道確保に係るもの）関連</b> ：経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	23 時間
②	<b>呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連</b> ：侵襲的陽圧換気の設定の変更、非侵襲的陽圧換気の設定の変更、人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整、人工呼吸器からの離脱	63 時間
③	<b>呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連</b> ：気管カニューレの交換	21 時間
④	<b>循環器関連</b> ：一時的ペースメーカーの操作及び管理、一時的ペースメーカーリードの抜去、経皮的心肺補助装置の操作及び管理、大動脈内バルーンポンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整	46 時間
⑤	<b>胸腔ドレーン管理関連</b> ：低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更、胸腔ドレーンの抜去	30 時間
⑥	<b>腹腔ドレーン管理関連</b> ：腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。）	22 時間
⑦	<b>ろう孔管理関連</b> ：胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換、膀胱ろうカテーテルの交換	50 時間
⑧	<b>栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連</b> ：中心静脈カテーテルの抜去	18 時間
⑨	<b>栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連</b> ：末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	21 時間
⑩	<b>創傷管理関連</b> ：褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、創傷に対する陰圧閉鎖療法	72 時間
⑪	<b>創部ドレーン管理関連</b> ：創部ドレーンの抜去	15 時間
⑫	<b>動脈血液ガス分析関連</b> ：直接動脈穿刺法による採血、橈骨動脈ラインの確保	31 時間
⑬	<b>透析管理関連</b> ：急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理	28 時間
⑭	<b>栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連</b> ：持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正	38 時間
⑮	<b>感染に係る薬剤投与関連</b> ：感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与	63 時間

⑯	血糖コントロールに係る薬剤投与関連：インスリンの投与量の調整	36 時間
⑰	循環動態に係る薬剤投与関連：持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整、持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整、持続点滴中の降圧剤の投与量の調整、持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整、持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	60 時間
⑱	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連：抗けいれん剤の臨時的投与、抗精神病薬の臨時的投与、抗不安薬の臨時的投与	58 時間
⑲	皮膚損傷に係る薬剤投与関連：抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整	40 時間

\*各科目、e-learning による講義を受講し、筆記試験を合格後、実習、一部演習科目を受講します。

\*\*実習施設は、自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センターの他、条件を満たせば自施設でも実習を行うことができます。

## 10. 受講モデル

共通科目を修得後、選択した区分別科目を履修します。特定行為の区分別科目は、複数選択できます。区分別科目毎に筆記試験、実習期間が異なります。半年間に2～4回の筆記試験及び実習期間の設定があるため、勤務との関係で、受講スケジュールの選択ができます。受講開始後に区分別科目の追加申請も可能です。受講が決定した際には、個別に受講スケジュールの相談に応じます。

(全体の受講進行表、区分別科目の受講モデルを参照)

## 11. 受講資格

次の各号に定める要件をすべて満たしていることが必要です。

### 【必須条件】

- 1) 看護師免許を有すること。
- 2) 看護師の免許取得後、通算5年以上の実務経験を有すること。
- 3) 所属長（看護部長あるいは同等職位の所属長）の推薦を有すること。

## 12. 出願手続き

### 募集要項請求方法

自治医科大学ホームページ「看護師特定行為研修センター」から必要書類をダウンロードしてください。

大学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/>

看護師特定行為研修センターホームページ <http://www.jichi.ac.jp/tokutei/index.html>

## 出願締め切り

平成 30 年 7 月 12 日 (木) 当日消印有効

## 出願提出書類

- 1) 受講願書 (様式 1)
- 2) 履歴書 (様式 2)
- 3) 志願理由書 (様式 3)
- 4) 推薦書 (様式 4) \*原則として所属機関の推薦とします。
- 5) 緊急連絡先 (様式 5)
- 6) 看護師免許 (写)

※ 提出された出願書類は返却いたしません。

## 出願書類提出方法

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺 3311-159 自治医科大学 看護師特定行為研修センター

※ 必ず「郵便書留」で送付するか、又は直接持参してください。

TEL : 0285 (58) 8932 特定行為研修センター事務室 (問合せ窓口)

## 13. 選考方法

書類選考により行います。選考結果については、本人宛て簡易書留速達にて郵送します。電話やFAXでの可否の問い合わせには応じられません。

## 14. 受講手続きと納付金（入講納付金及び受講料）について

受講予定者に受講手続きについての詳細をご案内します。なお、受講手続き期間および納付金については下記のとおりです。

受講手続き期間 平成 30 年 8 月 13 日 (月) ~8 月 24 日 (金)

納付金 (消費税込)

①入講納付金 20,000 円

②共通科目の受講料 一括 380,000 円

③希望する区分別科目の受講料 (下記の受講料・実習教材費一覧表参照)

\*実技試験を要する区分別科目においては、別途実習教材費 (10,000 円/科目) がかかります。

【区分別科目受講料・実習教材費一覧表】（消費税込）

コース No	区分別科目名	受講料	実習教材費
①	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	30,000 円	10,000 円
②	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	82,000 円	
③	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	27,000 円	10,000 円
④	循環器関連	60,000 円	
⑤	胸腔ドレーン管理関連	39,000 円	
⑥	腹腔ドレーン管理関連	29,000 円	
⑦	ろう孔管理関連：胃ろう・腸ろう管理関連 膀胱ろう管理関連	65,000 円	20,000 円
⑧	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	23,000 円	
⑨	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	27,000 円	10,000 円
⑩	創傷管理関連	93,000 円	10,000 円
⑪	創部ドレーン管理関連	19,000 円	
⑫	動脈血液ガス分析関連	40,000 円	10,000 円
⑬	透析管理関連	36,000 円	
⑭	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：高カロリー 一輸液調整、脱水と補液	49,000 円	
⑮	感染に係る薬剤投与関連	82,000 円	
⑯	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	47,000 円	
⑰	循環動態に係る薬剤投与関連	78,000 円	
⑱	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	75,000 円	
⑲	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	52,000 円	

- 一旦納めた受講料は原則として返還しません。
- 研修のための宿泊及び交通費等は実費負担となります。

【振込先】 銀行名 足利銀行自治医大出張所

がっこうほうじんじちいかだいがく  
口座名義 学校法人自治医科大学

口座番号 普通 124152

### 個人情報の取り扱いについて

- \* 本学では「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じております。
- \* 出願および受講手続きにあたって提供いただいた個人情報は、選考試験の実施、合格発表、受講手続、履修関係等に必要業務において使用させていただきます。
- \* 本学が取得した個人情報は、法律で定められた適正な手続により開示を求められた場合や秘密保持契約等の契約を締結した業者に資料発送等の業務を委託する場合以外に、本人の承諾なしに第三者へ開示・提供することはありません。

## 15. 給付金等のお知らせ

### 人材開発支援助成金（旧キャリア形成促進助成金）

この制度は、事業主に対して訓練経費等の一部を助成し、労働者のキャリア形成を効果的に促進することを目的とした助成金制度です。自治医科大学看護師特定行為研修は、この補助対象となりますが、助成を受けるためには、事業主から研修開始日の1ヵ月前までに、計画届等関係書類を提出する必要があります。詳しくは、所管の労働局に直接お問い合わせください。

### 専門実践教育訓練給付制度

この制度は、労働者の主体的で、中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。自治医科大学看護師特定行為研修は、平成29年8月に「専門実践教育訓練講座」の指定を受けました。

なお、給付を受ける場合は、受講前に受講者本人がハローワークに申請する必要がありますので、詳しくは厚生労働省ホームページでご確認ください。

#### \*教育訓練給付制度

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html)

#### \*専門実践教育訓練給付制度についてのパンフレット

[https://www.hellowork.go.jp/dbps\\_data/\\_material/\\_localhost/doc/senmonkyouiku\\_kyufu.pdf](https://www.hellowork.go.jp/dbps_data/_material/_localhost/doc/senmonkyouiku_kyufu.pdf)





# <受講進行表（参考）>

全科目の進行表

\* 講義 試験 実習

区分	4月/10月					5月/11月					6月/12月				7月/1月				8月/2月					9月/3月							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27				
共通科目	共通																														
	臨床推論/フィジカルアセスメント I																														
	臨床推論/フィジカルアセスメント II																														
	病態生理/疾病論 I																														
	病態生理/疾病論 II																														
	臨床薬理学																														
	医療安全学																														
	特定行為と手順書																														
特定行為基礎実習 I																															
特定行為基礎実習 II																															
区別科目	区別第1期											区別第2期																			
	呼吸器関連(気道確保)																														
	呼吸器関連(人工呼吸療法)																														
	呼吸器関連(長期人工呼吸療法)																														
	循環動態薬剤投与関連												本試験	再試験																本試験	再試験
	循環器関連																														
	感染薬剤関連																														
	精神・神経薬剤関連																														
	血糖薬剤関連	区別第1期											区別第2期											区別第3期							
	皮膚損傷薬剤関連																														
	PICC関連																														
	栄養・水分薬剤関連												本試験	再試験																本試験	再試験
	ドレーン管理関連(腹腔)																														
	ドレーン管理関連(胸腔)																														
	ドレーン管理関連(創部)																														
	ろう孔管理関連												本試験	再試験																本試験	再試験
	創傷管理関連																														
	動脈血ガス分析関連	区別第1期											区別第2期											区別第3期					区別第4期		
	IVH関連																														
	透析管理関連												本試験	再試験																本試験	再試験

<共通科目の受講モデル> \*e ラーニングですのであくまでも1例です。

共通科目 時間割(前期:4月~7月、後期:10月~1月)

	月	火	水	木	金
(120分)	●病態生理/疾病論 I 全20回うち15回	●病態生理学 II 全26回うち15回	●臨床薬理学 全20回うち15回	●臨床推論/ フィジカルアセスメント I 全15回	●医療安全学 全11回
(120分)	●病態生理/疾病論 I 全20回うち5回	●病態生理学 II 全26回うち11回	●臨床薬理学 全20回うち5回	●特定医行為とプロトコール 全15回	●臨床推論/ フィジカルアセスメント 全12回

\*6月/12月の3週か4週目は学内補講日 学内補講日は質問等を予約制で対面対応する。

共通科目 試験予定前期 本試験日:7月/1月、第3週目 再試験日:7月/1月、第4週目

	月	火	水	木	金
120分	病態生理/疾病論 I	特定医行為とプロトコール	臨床推論/フィジカルアセスメント I	予備日	予備日
120分	病態生理/疾病論 II	医療安全学	臨床推論/フィジカルアセスメント II	予備日	予備日
120分		臨床薬理学		予備日	予備日

**共通科目 実習Ⅰ期間例(8月/2月、1週間 3日間+通信 3クール開講 )**

	月	火	水	木	金
8月/2月 第2週目	通信教育	学内シミュレーション実習 身体診察・医療面接等	学内シミュレーション実習 事例実習	通信教育	学内シミュレーション実習 事例実習・試験
8月/2月 第3週目	通信教育	学内シミュレーション実習 身体診察・医療面接等	学内シミュレーション実習 事例実習	通信教育	学内シミュレーション実習 事例実習・試験
8月/2月 第4週目	通信教育	学内シミュレーション実習 身体診察・医療面接等	学内シミュレーション実習 事例実習	通信教育	学内シミュレーション実習 事例実習・試験

\* 研修生は各実習  
1クールずつ実習をする。

**共通科目 実習Ⅱ期間例(前期:8月/3月、5日間 4クール開講;最大8名/クール)**

	日	月	火	水	木	金	土
9月/3月 第1週目	オリエンテーション (通信)	病棟・外来実習	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	振り返り (通信)
9月/3月 第2週目	オリエンテーション (通信)	病棟・外来実習	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	振り返り (通信)
9月/3月 第3週目	オリエンテーション (通信)	病棟・外来実習	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	振り返り (通信)
9月/3月 第4週目	オリエンテーション (通信)	病棟・外来実習	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	病棟・外来実習 観察評価	振り返り (通信)

### <複数の区分別科目選択の受講モデル（参考）>

急性期で活用しやすいモデル：動脈血ガス分析関連、栄養に係るカテーテル管理（IVH）関連、呼吸器関連（気道確保）、呼吸器関連（人工呼吸療法）、循環動態に係る薬剤投与関連を選択した場合

1) 講義（通信教育）の期間：約9週間 \*日時は自由に変更可能

	月	火	水	木	金
120分	呼吸器関連 （気道確保）I 全4回うち3回  栄養に係るカテーテル管理（IVH） 関連 I 全3回うち2回	呼吸器関連（人工呼吸器）I 全20回うち7回	循環動態に係る 薬剤投与関連 I 全24回うち7回	呼吸器関 （人工呼吸器）I 全20回うち6回	循環動態に係る 薬剤投与関連 I 全24回うち8回
120分	動脈血ガス分析 関連 I 全8回うち4回	呼吸器関連（人工呼吸器）I 全20回うち6回	動脈血ガス分析 関連 I 全8回うち3回		循環動態に係る 薬剤投与関連 I 全24回うち8回

2) 試験 各区分別科目の最終回 \*日時は変更の可能性あり

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| ①動脈血ガス分析関連 I           | 本試験：10週目、再試験：11週目 |
| ②栄養に係るカテーテル管理（IVH）関連 I | 本試験：10週目、再試験：11週目 |
| ③呼吸器関連（気道確保）I          | 本試験：10週目、再試験：11週目 |
| ④呼吸器関連（人工呼吸器）I         | 本試験：10週目、再試験：11週目 |
| ⑤循環動態に係る薬剤投与関連 I       | 本試験：10週目、再試験：11週目 |

3) 実習 \*日時は変更の可能性あり

実習期間：10日間（80時間）

予定実習時間：8時～17時（8時間/日）

想定される実習場所：ICU、CCU、救命救急センターなど

動脈血ガス分析関連Ⅱ\*15時間、栄養に係るカテーテル管理（IVH）関連Ⅱ12時間、呼吸器関連（気道確保）Ⅱ\*15時間、呼吸器関連（人工呼吸器）Ⅱ24時間、循環動態に係る薬剤投与関連Ⅱ12時間 合計78時間 \*OSCEあり

**<少数の区分別科目選択の受講モデル(参考)>**

在宅で活用しやすいモデル：ろう孔管理関連、創傷管理関連を選択した場合

1) 講義（通信教育）の期間：約5週間 \*日時は自由に変更可能

	月	火	水	木	金
120分	ろう孔管理 関連 I 全 5 回うち 4 回	ろう孔管理 関連 III 全 5 回うち 4 回	創傷管理関連 I 全 14 回 4 回	創傷管理関連 I 全 14 回 4 回	創傷管理関連 I 全 14 回 5 回

2) 試験 各区分別科目の最終回 \*日時は変更の可能性あり

①ろう孔管理関連 I 本試験：6 週目、再試験：7 週目

②ろう孔管理関連 III 本試験：6 週目、再試験：7 週目

③創傷管理関連 I 本試験：6 週目、再試験：7 週目

3) 実習 \*日時は変更の可能性あり

実習期間 : 10 日間 (80 時間)

予定実習時間 : 8 時~17 時 (8 時間/日)

想定される実習場所：ろう孔管理関連 II 消化器センター、総合診療部など

ろう孔管理関連 IV 泌尿器科など

創傷管理関連 II 総合診療部、皮膚科など

ろう孔管理関連 II \*15 時間、ろう孔管理関連 IV \*15 時間、創傷管理関連 II \*45 時間  
合計 75 時間 \*OSCE あり

自治医科大学看護師特定行為研修センター

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-159

TEL : 0285 (58) 8932

e-mail : j-endure@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/>